

平成26年度授業づくり拠点校（活用力向上研究事業）実践事例

指導者 吉富 郁子

1 本校生徒の現状

本校生徒の国語科学習に関する現状を整理すると、おおむね次のようになる。

- (1) 昨年度の全国学力・学習状況調査の正答率は、A 問題では全国平均・県平均とほぼ同水準、B 問題の正答率は全国平均を13 ポイントあまり、県平均を14 ポイントあまり下回っている。特に B 問題では書く能力に関する問題において、県平均を16 ポイント下回った。
- (2) 仲間と話し合うことを好み、その中で自己の考えを形成するヒントをつかむことができる。
- (3) 学習規律はほぼ定着しているといつてよいが、授業形態や課題によっては集中力を欠く言動をとる生徒もいる。
- (4) 筋道を立てて考え、説明することを苦手とする生徒も少なくない。

そこで、活用する力を向上させていくための取組として、上記の(2)・(3)に注目し、生徒同士が小グループで意見交換をすることをとおして学習を深めていく授業過程を中核にすえ、以下の点から授業づくりを構想することとした。

- (1) 「聞く・書く・話し合う」等、それぞれの学習活動を明確に区分する学習規律の徹底とそれぞれの学習活動のスムーズな連動
- (2) 個の学習、ペア学習、グループ（4人）学習等、多様な学習形態の工夫
- (3) 効果的な思考のコントロール（広げたり、焦点化したりする）の工夫

上記に加え、毎時間授業評価を行い、授業改善に役立てるとともに、生徒自身に自己の学習力向上の重要性を意識させた。

授業評価については、萩東中学校の実践を参考にし、「国語学習振り返りシート」（資料1）を作成して活用した。

国語学習 振り返りシート ()組()番()

授業前	・あいさつが終わったら、まず「めあて」を写す。この授業で何ができるようになればいいのかわかるので、「主体的に授業に臨める。」「めあて」を振り返れば、授業のポイントがわかる。授業のポイントがデスタのポイントでもある。									
授業の終わり	・「めあて」が達成できたか、「評価」(5段階)と「一言感想」を記入する。 ◆評価⑤友達に説明できる ④自分で納得 ③何とか理解 ②理解できなかった部分は教えてもらおう～ ①全然だめだ～									
記入の仕方	◆「音読」(音トレ)：家でやった方法に○をする。◆「ノート」(文字トレ)：自学ノートでやったページ数を記入する。 ◆「発表」：挙手回数を「数字」で(0回は×)を記入する。									
							◎よくあてはまる ○あてはまる △いまいち			
日付	宿題(家トレ)	発表	今日のめあて	評価	一言感想(または学んだことや疑問点)	小テスト結果	風中	授業内容	発表内容	授業は進
11/20	0	0	11月20日の 宿題の振り返り	④	作文の感想が良かった。読書の感想も たくさんあった。自分の考えがまとまらな い。		◎			
11/21	1	1	おきな(おきな)の音読。おきな(おきな)の音読。おきな(おきな)の音読。	⑤	おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。	◎	◎	◎	◎	◎
11/22	0.5	2	音読の振り返り。音読の振り返り。音読の振り返り。	⑤	音読の振り返りが楽しかった。音読の振り返りが楽しかった。音読の振り返りが楽しかった。		◎	◎	◎	◎
11/23	1.0	6	表現の振り返り。表現の振り返り。表現の振り返り。	⑤	表現の振り返りが楽しかった。表現の振り返りが楽しかった。表現の振り返りが楽しかった。		◎	◎	◎	◎
11/24	1	1	おきな(おきな)の音読。おきな(おきな)の音読。おきな(おきな)の音読。	⑤	おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。		◎	◎	◎	◎
11/25			表現の振り返り。表現の振り返り。表現の振り返り。		発表					
11/26	1	1	「おきな」の音読の振り返り。おきな(おきな)の音読の振り返り。おきな(おきな)の音読の振り返り。	⑤	おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。		◎	◎	◎	◎
合計	5	3.5	2週間振り返り、次の授業・学習計画など おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。おきな(おきな)の音読が楽しかった。		発表		◎	◎	◎	◎

2 学習指導案

国語科学習指導案

10月31日(金) 5校時 3年教室(33人) 指導者: 吉富郁子

(1) 題材名 「君待つと — 万葉・古今・新古今」

(2) 教材のとらえ方

① 生徒は、作品の言葉一つ一つが選び抜かれたものあることを学んできている。

生徒は1年生時に百人一首のクラスマッチを経験し、和歌の調べに親しんでいる。また、2年生では短歌、3年生では俳句を学習し、その作品に詠まれた言葉一つ一つが作者によって選び抜かれたものであることを学んできている。しかし、古典の和歌となると、表現が難しいと感じたり、仮名遣いへの抵抗を感じたりして、これまでの学習が生きてこないことも考えられる。和歌を一度通読した後、印象を尋ねたところ、百人一首でなじみのある作品が挙げられている「新古今集」にひかれる生徒が多く、長歌や柿本人麻呂の作品がある「万葉集」は特に難解だと感じている。また、恋の歌がいくつか挙げられていることに着目する生徒もおり、大まかに内容をつかんだようだ。

② 言葉の選び方や配置に着目することで、歌の力に気づくことができる教材である。

「古今和歌集 仮名序」にあるように、歌は「力をも入れずして、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をも、あはれと思はせ」る力をもっている。奈良時代以前から和歌は詠まれており、日本文学の原点の一つに「万葉集」がある。本時で取り上げる「東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ(万葉集)」の歌は、宮廷歌人である柿本人麻呂が軽皇子(後の文武天皇)の供をして安騎野に狩猟に訪れたとき詠まれた歌である。「かへり見すれば」から東と西の間も詠まれ、作品が立体的になっていること、この東西を対比した表現の「炎の立つ」と「月傾きぬ」から、それぞれに絶妙な瞬間をとらえて見事に描き出していること等、読むものをはっとさせる力をもつ作品である。また、「炎」の字形や「立つ」の語感から勢いのある様が、「月傾きぬ」の意味から衰える様も読み取れる。調べの点からは、上句の句割れも下句で「かへり見すれば月傾きぬ」と一気に詠み流すことによって逆に生かされるという特長をもつ作品である。

③ 二つの和歌の表現の違いを根拠にしながら、作品のよさを説明させたい。

既習の持統天皇の和歌「春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香具山」と比較する活動を仕組むことで、表現に向き合うエネルギーをひき出したい。具体的には、作品中の比較の仕方について、相違点を考えさせる。気づきや疑問をしっかりと語り合わせ、着目した言葉やその配置から生まれる印象の違いについて考えさせる中で、一人ひとりの読みを深めさせたい。二つの和歌の表現の違いが明らかになったところで、学習課題「柿本人麻呂の歌のよさを伝えよう。」を与える。生徒たちは、作品の特長とその根拠について、自らの表現を工夫しながら考えを述べたり、

書いたりするだろう。また、学習の過程において、互いの考えや気づきを語り合うことの楽しさを味わわせたい。

(3) 学習計画（総時間数7時間）

- ① 「君待つと —— 万葉・古今・新古今」との出会い・・・・・・・・・・ 1時間
- ② 言葉を手がかりにして、和歌を鑑賞する・・・・・・・・・・ 4時間（本時2／4）
- ③ 担当した和歌について発表する・・・・・・・・・・ 2時間

(4) 本時の学習過程

- ① 題材名 「東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ（東野炎立所見而反見為者月西渡）」《柿本人麻呂 巻第一、四八》
- ② 主眼 二首の表現を比較し、作品中の素材の比較のされ方がどう違うかを考える活動をとおして、和歌「東の野に…」の特長を説明することができる。
- ③ 準備 ワークシート、古語辞典
- ④ 授業の過程

学習内容 および 学習活動	教師の手だて（評価：◆）
1 学習の方向を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柿本人麻呂の和歌を持統天皇の和歌と比較しながら学習することを伝える。 ・ 本時のめあてを提示する。
【本時のめあて】二首の表現を比較して読み味わおう。	
<p>2 柿本人麻呂の和歌と出会う。歌の大意をつかみ、言葉を吟味しながら作品に詠み込まれた情景を読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">一日のうちのいつごろか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「かぎろい・炎」＝明け方、朝方 ・ 陽炎 ・ 曙光 ・ 春は曙（枕草子） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">どのような場所か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「東」から「月傾きぬ（西）」まで見渡せる広いところ <li style="text-align: center;">↓ ・ 東（明）と西（暗）の対比が詠み込まれていることに着目 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範読聴取→音読→黙読→言葉の意味の確認の手順で出会わせる。 ・ ワークシート（資料2）を活用させ状況を読み取らせる。 ・ 「かぎろい」から、明け方をはじめ、朝方、日の出まぎわ等の表現が出るだろうが、それぞれの言葉が微妙にニュアンスが異なり、それぞれに着目したこと自体を価値づける評価を行い、次の学習活動へつなげる。 ・ 場所を読みとる際に「広いところ」と答える者がいるだろう。発言の根拠を明確にさせ、東から西を振り返る動作が詠まれていることに気づかせる。 ・ 生徒の様子を観察し、班で意見交換をするよう適宜指示を出す。

【発問1】 比較の仕方がどう違っているか。

3 二つの和歌を比べ、比較の仕方の相違とそこから生まれる印象の違いを考える。

《持統天皇の歌》
 ・春<=>夏（季節の相違）
 ・時間の幅が大きい
 ・白<=>緑
 ・平面的

《柿本人麻呂の歌》
 ・「炎」「立つ」=勢い
 ↓
 「月傾きぬ」=衰え
 ・絶妙な一瞬を見事にとらえている
 ・立体的

・東と西の比較に用いられている言葉に着目した『炎』や『立つ』からは勢いが、『傾きぬ』からは衰える様子が読み取れる」等の発言を大切に扱う。
 ・時間の幅の違いに着目させる。
 ・柿本人麻呂の歌は東と西の間も詠んでいることを押さえる。
 ・ともに考え語り合える場を保障する。
 ・発表させ、表現との関連がわかるように板書する。

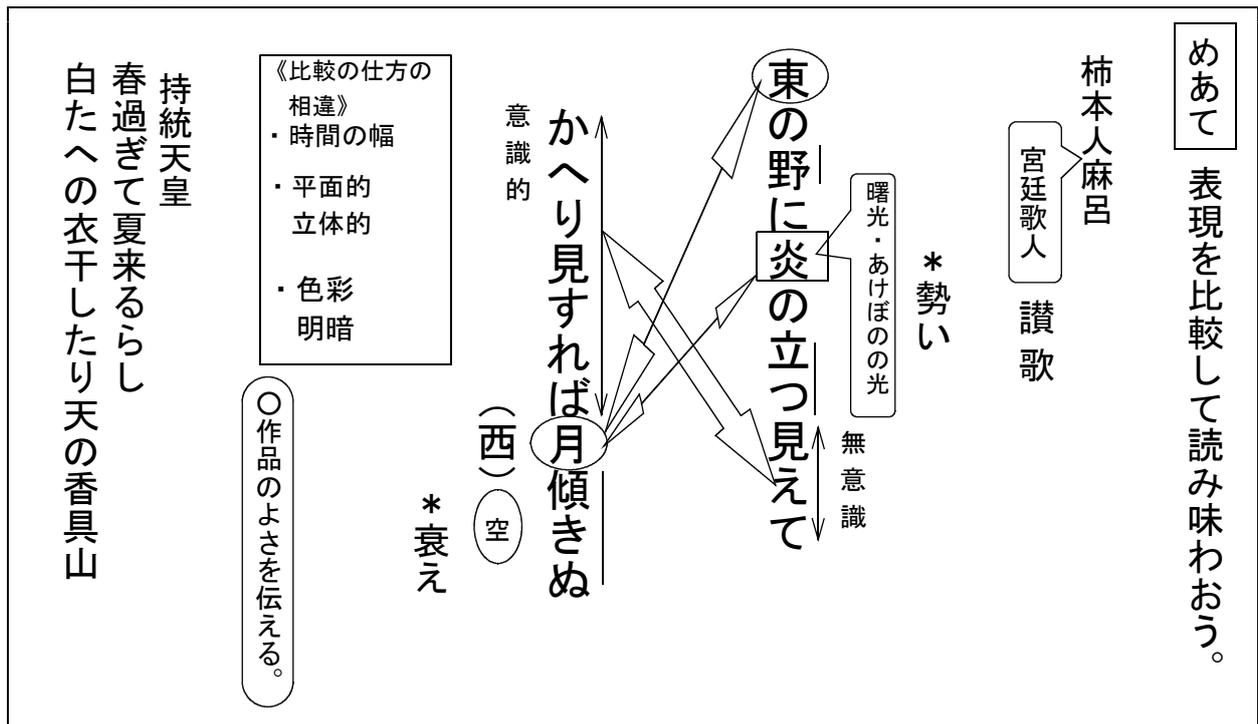
【発問2】 柿本人麻呂の歌のよさを伝えよう。

4 歌のよさを根拠を添えて説明する。
 ・ワークシートを活用し、自分の考えを表現する。

5 本時の学習を振り返る。
 柿本人麻呂の作品を朗読する。

・意見交換が一段落した時点で、各自ワークシートに向かわせ、学習のまとめをさせる。
 ◆和歌のよさについて、根拠を元に自分の考えを書くことができたか。（読む・書く）
 ・振り返りシートを活用して、学習の成果を振り返らせる。学習したことを生かして、朗読させる。

(5) 板書計画



1 主眼
二首の表現を比較し、作品中の素材の比較のされ方がどう違うかを考える活動をとおり、和歌「東の野に…」の長を説明することができる。

2 指導上の留意点
① 柿本人麻呂の和歌を持統天皇の和歌と比較しながら学習することを伝える。（めあての確認）

② 範読聴取→音読→黙読→言葉の意味の確認の手順で作品と出クシートを活用させ、情景を読み取り活用させ、生徒の様子を観察し、班で意見交換するよう適宜指示を出す。

③ 東と西の比較に用いられている言葉に着目した発言を合える場を保障する。
* 立体的と平面的、時間の幅の違い等

④ 意見交換が一段落した時点で、ワークシートに向かわせて、学習のまとめをさせる。
* キーワード、三文で

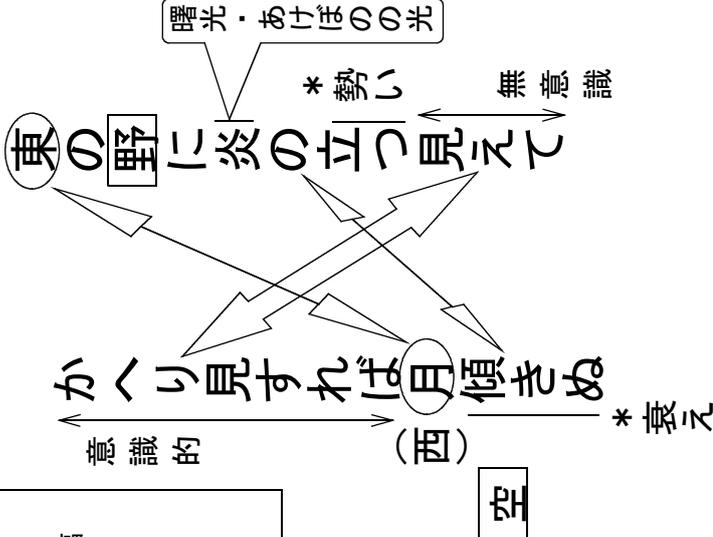
⑤ 振り返りシートを活用させる。

持統天皇

春過ぎて夏来るらし
白たへの衣干したり天の香具山

《比較の仕方の相違》
・ 時間の幅
・ 平面的立体的
・ 色彩 明暗

○ 作品のよさを伝える。



柿本人麻呂

宮廷歌人 讃歌

めあて 表現を比較して読み味わおう。

本時の流れ

- ① 学習の方向を確認する。
- ② 柿本人麻呂の和歌と出会う。歌の大意をつかみ、言葉を吟味しながら作品に読み込まれた情景を読み取る。
- ③ 二つの和歌を比べ、比較の仕方の相違とそこから生まれる印象の違いを考える。
- ④ 歌のよさを根拠を添えて説明する。・ワークシートを活用し、自分の考えを表現する。
- ⑤ 学習を振り返る。・柿本人麻呂の歌を朗読する。

評価

和歌のよさについて、根拠をもとに自分の考えを書くことができたか。

3 考察

意見交流によって獲得したキーワードを用いながら、生徒たちは歌のよさを次のように表現した。

- ・私はあけぼのと月が同時に見える、一瞬だけど、美しい光を描いた情景が好きです。広い野に光が広がっていて、この作品の雄大さがよく表れています。立体的なところもすばらしいと思います。
- ・柿本人麻呂が見た立体的な風景が目には浮かびます。また、軽皇子と草壁皇子が象徴的に対比されています。読み手が情景をイメージしながら皇子の対比を感じることができるすばらしい作品です。

- ・この歌は上の句と下の句を対比し、また歌が詠まれた背景を知ることによって叙景歌ではなく象徴的であることがわかるようにできている。炎と月はそれぞれ軽皇子と草壁皇子を表しており、軽皇子に次の天皇として輝いてほしいという願いがこめられている。一見叙景歌に見えるが、実は宮廷の繁栄を想う、意味の強い歌である。

本時の学習に続いて、2～3人のグループで教科書掲載の他の作品を一首ずつ担当し、互いの読みを交流しながら、便覧等を活用して読み深め、担当した和歌を全体に紹介する学習を行った。グループごとに発表シート（資料3）を作成した。発表時には、課題を提示して考えさせるグループや、歌の内容を寸劇で表現するグループもあった。以下は全7時間の学習の感想である。

- ・和歌の読解を行ってきました。短歌は三十一音しかないのに、その中で自分の伝えたいことを表現するために、表現技法を駆使するなどの工夫がこらされており、読解はとても楽しかったです。

いにしえの心と語ろう「君待つとー万葉・古今・新古今」三年 三組 五番氏名 ()

＊めあて【表現を比較して読み味わおう】 出典 便覧 ()

柿本人麻呂 (生没年未詳持統・文武両天皇に仕えた宮廷歌人宮廷に出生、天皇や皇子への讃歌を詠む。長歌に優れ、歌型と新せられる。)

宮廷歌人 (讃歌) (けいたかよみ)

軽皇子 (あき)

草壁皇子 (あき)

東の野に炎の立つ見えて

かへり見すれば月傾きぬ

西に傾いている。

東の方の野にあけぼのの光が見えて、振り返って見ると、月は西に傾いている。

情報(背景) × 叙景

象徴

持統天皇ー草壁皇子ー軽皇子(文武両天皇)

草壁皇子

炎

月

西

東

情報(背景)の内容まで

読入していく言葉だけ

理解

○一日のうちのいつごろ?

朝方 (太陽のあたりは月がしずかかた)

○どのような場所?

広野原 (より近てもくまざる物が何もなし)

○比較の違いは?

炎、軽皇子、月、草壁皇子

炎、あけぼの、月、草壁皇子

叙景ではなく象徴

○作品のよさを伝える。(○三文)

この歌は上句と下句を対比し、また歌が詠まれた背景がよみ手に伝わり、あけぼのと月が同時に見える、一瞬だけど、美しい光を描いた情景が目に浮かびます。また、軽皇子と草壁皇子が象徴的に対比されています。読み手が情景をイメージしながら皇子の対比を感じることができるすばらしい作品です。

あけぼのと月が同時に見える、一瞬だけど、美しい光を描いた情景が好きです。広い野に光が広がっていて、この作品の雄大さがよく表れています。立体的なところもすばらしいと思います。

柿本人麻呂が見た立体的な風景が目には浮かびます。また、軽皇子と草壁皇子が象徴的に対比されています。読み手が情景をイメージしながら皇子の対比を感じることができるすばらしい作品です。

資料 2

- ・古典作品について、あまり知りませんでした、クラスのみなどと協力して読みを深めていくのがとてもおもしろかったです。
- ・古典作品は表現技法や作者の思いなど奥が深くて難しかったです、それらの真相や真意を読み取れたときはとてもすっきりしました。

生徒たちは、教材との出会いや仲間の発言・反応、教師の問いや反応喚起（ワークシートに書かせる、話し合わせる、音読させる、比較させる）を介して、新たな認識を得、それを活用しながら自分なりの言葉で思考内容を表現することの価値を感得したのではないかと考える。

授業後には、山口市・防府市を中心に約30名の先生方による研究協議が行われた。今回の研究協議はそれぞれの先生方が気づきを記入した付箋を貼付していくかたちのワークショップ型研修の手法で行った。授業の基礎技術の話題や、問いの有効性、生徒のどの言葉をどのように解釈していくべきかという教師の反応解釈・反応組織に関わる話し合いとなった。今後の課題も確認できた。

(1) 共有化について

柿本人麻呂をはじめ持統天皇や草壁皇子、軽皇子についての知識をもって発表を行った生徒がいた。その発表内容を皆のものにする時間の確保が十分でなかった。共有できたところとできなかったところがあったので、今後の研究課題としたい。

(2) 問いの必然性について

認識の変化を促すために、比較の素材として持統天皇の歌を用いたが、それを出さずとも生徒は象徴的な部分を読んでいた。「比較する」という手法は言語形式に関わって言葉をとらえる感覚や能力を鍛えるために有効であるが、素材の選択について今後もしっかりと研究していきたい。

*めあて【表現を比較して読み味わおう】

西行法師
俗名佐藤義清。二十三歳のとき出家した。生涯を旅の歌人として送り、その歌に独自の境地を示した。

夏の季語

道の辺に清水流るる柳かげ

情景

大意
道のほとりには清水が流れている。その下にある柳の木陰で少し休もうと思っ立ち止ま。たが、ついでに長居をしてみました。

少したけ

しばしとてそ立ちとまりつれ

係結(逆接)

行動と心情

い居るまじろ
まじろとい居るまじろ

○西行法師とは
藤原秀郷の子孫。俗名佐藤義清。もと鳥羽法皇に仕えた北面の武士。二十三歳で出家し、旅の歌人としてほとほり出る感慨を歌に託し、自然人生を叙情的に歌った。

○暑い日に木陰に入りたいたいという気持ちは今も昔も同じ。

○作品の良さを伝える
上の句で情景を、下の句で作者の行動と心情を表している。景色をそのまま表していて、イメージしやすい。今も昔も変わらない気持ちを表しているので、共感しやすい作品になっている。

資料 3